

日本原子力学会炉物理部会第 36 回全体会議 議事録

日時:平成 24 年 3 月 21 日(水)12:00-13:00

場所:日本原子力学会 2012 春の年会 C 会場(福井大学 工学部 1 号館 3 号棟 115M 講義室)

I 平成 23 年度(下期)活動報告と提案

1. 炉物理部会規約等の改定(部会等運営委員会担当運営委員) (配布資料 36-1)
北田担当幹事から規約類の変更について経緯を含めて説明がなされた。部会への直接的な影響は、部会内組織の名称に係る規約があり、運営委員会は運営小委員会、ワーキンググループは WG ワーキンググループと称することとなる等が報告された。
2. プログラム投稿区分の審議(部会等運営委員会担当運営委員) (配布資料 36-2)
北田担当幹事からプログラム投稿区分の案について報告があった。既に締め切られた案件であるが決着されていない事案である。炉物理部会と新型炉部会の所掌に関する事案であるため、2012 年度運営小委員会で持ち越し検討となった。
3. 平成 23 年度予算実績報告(財務小委員会担当幹事) (配布資料 36-3)
西原担当幹事から会計報告がなされた。未使用金 25100 円の本部返納が報告されたが、松本庶務担当幹事より Physor2014 招致 WG の旅費が承認されて 1 名実績が出たため、若干の赤字になると予想されるとの補足があった。
4. 「炉物理の研究」第 64 号の編集状況(編集小委員会担当幹事) (配布資料 36-4)
杉村担当幹事から第 64 号の目次案を用いて概略説明がなされた。3 月末から 4 月初旬の発行を予定していることが報告された。
5. Physor2014 招致 WG(学術交流小委員会担当幹事) (配布資料 36-5)
遠藤担当幹事より、Physor2014 招致 WG の活動概要について説明がなされ、場所を京都で決定した事等について報告があった。会場より福島等を活性化する意味で京都開催に関する疑義が出されたが、400 人規模の国際学会というインフラの観点、昨今の国際学会の収支等を検討し京大炉のバックアップが期待できる等を吟味した上で決定されたこと等の説明がなされた。
6. その他 (配布資料 36-6)
佐治部会長より「炉物理ロードマップ作成 WG」活動が企画セッションで詳細報告されること、及び炉物理部会から推薦した日本原子力学会平成 24 年度フェローに H21 年度部会長の肥田氏が選ばれたことが報告された。
7. 平成 24 年度炉物理部会運営小委員の選出(H23 年度部会長) (添付資料 36-7)
佐治部会長より H24 年度の炉物理部会運営小委員会候補について提案がなされ、部会全体会議の拍手をもって承認された。部会長の挨拶の後、議事進行を岩崎新部会長に交代した。

II 平成 24 年度活動計画

8. 新部長挨拶/体制紹介 (配布資料 36-8)
岩崎新部長の挨拶のあと、部会全体会議に参加している運営小委員会メンバーの自己紹介がなされた。
9. 平成 24 年度予算案(財務小委員会担当幹事) (添付資料 36-9)
西原財務担当幹事(H23 年度)から H24 年度の予算案について報告がなされた。Physor2014 招致に関する旅費を繰越金により捻出する計画であり、学会の承認が得られたことが報告された。
10. 第 44 回炉物理夏期セミナーの企画(セミナー小委員会担当幹事) (添付資料 36-10)
岡嶋副部長兼セミナー担当幹事から夏期セミナーの場所、日時、テーマについて報告がなされ、今後の講師依頼等について協力が要請された。
11. その他 (添付資料 36-11)
遠藤学術交流小委員会担当幹事より「第 6 回日韓合同サマースクール(加速器・ビーム科学、核データ、放射線工学、炉物理)開催」について紹介がなされた。

以上

